

花の忍者 変化の術 其の二

極楽寺山には変化の術を使う忍者もいる。その名は「シロモジ」と「クロモジ」だ。変化の術には他にも「アオモジ」や「アブラチャン」などがある。

シロモジ(白文字)

クスノキ科シロモジ属

名の由来

クロモジに対比して命名されたという説がある。

- ・落葉小高木。葉は、互生し、広倒卵形で3裂する。
- ・4月に葉に先立ち黄緑色の花を咲かす。
- ・材は杖などに使用される。
- ・極楽寺山の代表木の1つ。(蛇の池周辺に多い。)



クロモジ(黒文字)

クスノキ科シロモジ属

名の由来

黄緑色の枝に付く黒いスス状態の斑点を文字に見立てたという説がある。

- ・落葉小高木。葉は狭情円形。
- ・4月から5月に新芽と同時に黄緑色の花柄の長い花を咲かす。
- ・高級な爪楊枝の素材として利用される。



アオモジ(青文字)

クスノキ科ハマビワ属



アブラチャン(油漉青)

クスノキ科ハマビワ属

撮影地:
山口県秋穂にて

撮影地:
熊本県五木にて

花の忍者 変化の術 其の二

極楽寺山には変化の術を使う忍者はまだいる。その名は「スマレ」一族だ。

名の由来

花の形が大工道具の“墨入れ”に似ていることから「すみれ」の呼び方がしだいに「スマレ」になったという説がある。

タチツボスマレ(立坪菫)

スマレ科スマレ属

- ・花期は3月から5月。
- ・日本全国普通に見られるスマレ。
- ・地上茎を持つ。
- ・花柄は無毛。
- ・托葉は縁が櫛の歯状が目立つ。
- ・根生葉はハート形。



スマレ(菫)

スマレ科スマレ属

- ・花期は4月から6月。
- ・日当たりの良い場所に見られる代表格のスマレ。
- ・葉は長楕円状披針形で先は丸。
- ・花柄が根元から立ち上がり直立。
- ・葉柄には翼がある。



ツボスマレ(坪菫)

スマレ科スマレ属

- 別名:ニョイスミレ(如意菫)
- ・花期は4月から5月。
 - ・やや湿った草地、林内に見られるスマレ。
 - ・花は白色で小さく、距は短い。
 - ・托葉は披針形で全縁。
 - ・根生葉は扁心形。



その他、極楽寺山にはシハイスミレ・コスミレなどが花を咲かす。

花

の忍者 分身の術 其の二

極楽寺山分身の術を使う忍者がいる。その名は「アヤメ」「ノハナショウブ」そして「カキツバタ」だ。これら分身の術を見破る方法を紹介しよう。

アヤメ科アヤメ属

花	アヤメ(文目)	カキツバタ(杜若)	ノハナショウブ(野花菖蒲)
咲く場所	乾燥地 蛇の池周辺	湿地 八幡湿原多し	草原、水辺、湿地 蛇の池周辺
開花時期	5月上旬から中旬	5月中旬から下旬	5月中旬から下旬
名の由来	外花被の基部に稜になった目があることによる。	書付花が転化したものといわれる。	ハナショウブの原種。
花の色	紫 	青紫 紫 白 	赤紫 
外花皮	中央部黄色と紫色の虎斑模様。 	中央部に白ないし淡黄色の斑紋。 	中央部は黄色の斑紋。 
葉	幅は狭い。真中の主脈は目立たない。	幅が広い。真中の主脈は細いが手で触るとわかる。	幅は中間。真中の主脈は太く厚みがある。

植物観察のノウハウ知識

花

の忍者 分身の術 其の二

極楽寺山には分身の術を使う忍者がいる。その名は「コブシ」と「タムシバ」だ。この分身の術を見破る方法を紹介しよう。

コブシ(辛夷)

モクレン科モクレン属

名の由来

つぼみや実がこぶしに似ていることによる。

- ・落葉高木。
- ・葉は単葉で互生。
- ・**タムシバの葉より幅広卵形。**
- ・4月から5月に葉より前に白色の花を咲かすが、1枚の葉をつける。



タムシバとの違い
花の下に「葉」が1枚。



タムシバ(匂辛夷)

モクレン科モクレン属

別名:カムシバ、ニオイコブシ

別名の由来

葉をかむと甘味がある。
花は芳香を放つことによる。



- ・落葉小高木。
- ・葉は単葉で互生。
- ・**コブシの葉より細長い卵形で葉の裏は白っぽい。**
- ・4月から5月に葉より前に白色の花を咲かす。



植物観察のノウハウ知識

葉

の忍者変身の術



極楽寺山にも忍者がいる。その名は「カクレミノ」幼木の折には、その葉は三裂から五裂、毛糸の手袋かグローブを思えば頭に浮かぶ。大きくなると、その葉の裂片は全縁と化す。

カクレミノ (隠蓑)

ウコギ科カクレミノ属

名の由来

葉の形を蓑に例えたと言われる。

- ・常緑高木。直立して9m近くの高木となる。
- ・葉は互生して厚くつやがある。
- ・夏に淡黄緑色で散形花序の小花を咲かす。



花と実のイメージ図



成木の葉と実



幼木 五裂した葉



三裂した葉と成木になる前だが、裂片がなくなり全縁になった葉

葉

の忍者変身の術



極楽寺山にもまだ忍者はいる。その名は「リンボク」。幼木の折には、その葉はヒイラギの葉に似て縁にギザギザのトゲを持つ。老木になるにつれ、その葉のトゲはなくなり波打ち全縁と化す。

リンボク (樺木)

バラ科サクラ属

別名:ヒイラギカシ

- ・常緑高木。10mから15m近くの高木となる。
- ・葉は互生し葉柄に密線がある。
- ・秋に白色で総状花序の小花を咲かす。

別名の由来

幼木の葉がヒイラギに似ていることによる。



幼木 葉は互生。鋸歯がある。



成木 葉は互生。鋸歯がなくなり波打つ。

類似 ヒイラギナンテン

庭木にあるこの木の葉は輪生している。その他、ヒイラギ、ヒイラギモクセイなど類似植物がある。



老木になるにつれ、鋸歯から全縁となるのは、動物達に食される可能性が少なくなるからとも言われる。人も年とともに丸くなるの例えと同じかも。

黄

金の花達

極楽寺山にも、黄金がある。一両、十両、万両、極楽寺山には見かけないが百両、千両もどこぞに埋蔵されているかも?!

ツルアリドオシ (一両)

アカネ科



カラタチバナ (百両)

ヤブコウジ科



マンリョウ (万両)

ヤブコウジ科



ヤブコウジ (十両)

ヤブコウジ科



センリョウ (千両)

センリョウ科



極楽寺山には
残念ながら見かけない。

極

楽寺山で見られるツツジって?

春、新緑に覆われた登山道をピンクや赤や白で鮮やかさを演出する「ツツジ(躑躅)」ってどんな種類があるのでしょうか。

月	3月	4月	5月	6月	7月
開 花 時 期		コバノミツバツツジ			
			ヒメヤマツツジ		
			セトウチウンゼンツツジ		バイカツツジ
			ウスギヨウラク		
			スノキ		
		アセビ			ネジキ

コバノミツバツツジ



三枚の葉が開く前、枝先にピンクの花を咲かす。オシベは10個。

ヒメヤマツツジ



葉は互生。枝先にピンクの花をつける。オシベは5個。

アセビ



セトウチウンゼンツツジ



葉は互生。白色の花をつける。オシベは5個。

スノキ



ウスギヨウラク



ネジキ



極

楽寺山で見られるイチゴって?

楽寺山の登山道では、初夏や秋から冬にかけて赤や朱色のイチゴが実をつけている。イチゴの種類と見分け方のポイントを見てみましょう。

バラ科キイチゴ属

苺	咲く場所	開花時期 (実が熟す時期)	花の色	実の色	特徴
ナガバモミジイチゴ (長葉紅葉苺) 	登山口から山頂にかけて。	花は4月から5月頃。 (実は5月から6月頃)	白色	黄色から橙色	茎は無毛で刺が多い。高さは1mから2m。 
クサイチゴ (草苺) 	登山口と中腹に多い。	花は3月から4月頃。 (実は5月から6月頃)	白色	赤色	茎は横に長く草のようにはう。高さは20cmから60cm。 
ピロードイチゴ (天鷲絨苺) 	中腹に多い。	花は3月から5月頃。 (実は5月から6月頃)	白色	朱色	茎には刺がある。全体的に毛氈状の毛が密生し、触れるとピロードのような滑らかな感触がある。
フユイチゴ (冬苺) 	登山口付近に多い。	花は9月から10月頃。 (実は11月から1月頃)	白色	赤色	茎は細く短い毛が多数あり刺はないが触るとチクチクする。





極

楽寺山で見られるドングリって?

楽寺山の標高500m付近から、登山道には落ち葉とともに、多数のドングリを見る。ドングリって、どんな種類があるのだろう。




ブナ科コナラ属コナラ亜属

～落葉する仲間～

木	特徴	実の特徴
コナラ 	樹皮は灰褐色で縦に不規則な割れ目がある。葉の表面は濃緑色、裏面は灰白色。葉縁は鋭い鋸歯。	殻斗はウロコ状 
アベマキ 	樹皮は灰褐色でコルク層。葉の表面は濃緑色で光沢。裏面は粉白色で毛が全体に密生。葉縁は波状鋸歯。	殻斗はイガ状 

ブナ科コナラ属アカガシ亜属

～落葉しない仲間～

木	特徴	実の特徴
アカガシ 	樹皮は緑灰黒色。大木は、かさぶた状にはがれる。葉は互生し他の樫に比べ葉柄が長い(2cmから3cm)。厚く光沢あり。全縁。	殻斗碗形 横縞数層 
ツクバネガシ 	樹皮は茶色を帯びた暗い灰色。葉の主脈真中へこむ。裏はそる。枝の先の葉が4枚から5枚集まってつく。葉の上部に小鋸歯。	
ウラジロガシ 	樹皮は灰黒色で滑らか。葉の裏面はロウ質で灰白色で毛は側脈に密生。葉の1/3以上に粗鋸歯。	
アラカシ 	樹皮は緑がかった灰黒色。浅い割れ目と皮目がある。葉の上半分に粗鋸歯。	

「こうよう」って何?

春、山の木々は新緑に輝き、秋には紅や黄色に変化し、そして次の年のため、そのエネルギーを蓄える「こうよう」って?

落葉する前に赤く染まる葉を「紅葉」
黄色に染まる葉を「黄葉」と言います。

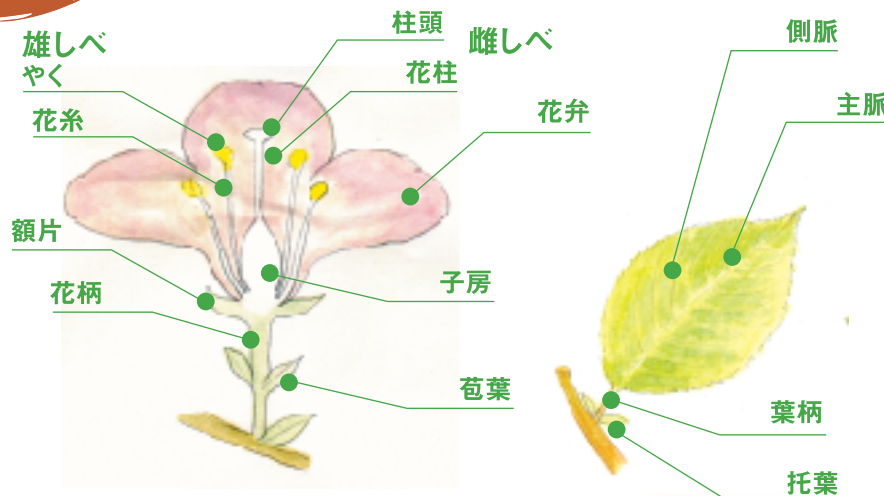
	紅葉	黄葉
春 新緑の頃	日光の光をたっぷり浴び、クロロフィルという葉緑素を作り「緑色」を鮮やかにする。	日光の光をたっぷり浴び、クロロフィルという葉緑素を作り「緑色」を鮮やかにする。
秋 紅葉、黄葉の頃	緑を形成していたクロロフィルが分解されカロチノイドが葉の表面に現れ、気温の低下とともに水や養分の管路がつまり、光合成により葉に蓄えられたデンプンが溜まる。デンプンは分解され、ブドウ糖に変化し、赤色系のアントシアニン色素に変化することで葉が赤くなる。	緑を形成していたクロロフィルが分解され、カロチノイドが葉の表面に現れ葉を黄色化する。
冬 落葉の頃	葉柄と枝の間にできた離層のため落葉。	葉柄と枝の間にできた離層のため落葉。
主な植物	コハウチワカエデ、イロハモミジ、ハゼ、ツタウルシ、ナナカマド等	イチョウ、イタヤカエデ、ブナ、シロモジ、クロモジ、コシアブラ等

紅葉は以下の条件で、より綺麗な紅葉を見ることができる。

- ① 十分な日当たりがあること。
- ② きれいな空気があること。
- ③ 摂氏8度以下の冷気。特に急激な冷え込みがあること。
- ④ 適度な湿度があること。

植物の構造って?

花の構造や葉の形、付き方は植物により、それぞれ異なります。各々の名前を覚えて植物と付き合うと楽しさが倍増します。



植物観察ひともち知識

植物観察ひともち知識



で恐いもの何?

山で恐いもの。「怖い」と思う心こそ、「怖い」のだと思う。ここに書かれたものにとどめず、より知識を広め安全で楽しい山歩きをしましょう。

野生動物

ヘビ

人間に嫌われる代表的なのがヘビだ。特に、マムシ・ヤマカガシといった毒蛇には1m以内には近づかないこと。

クマ

出会頭に遭遇しないようクマ除けスズの「カウベル」や「ラジオ」は有効だが、やたらと賑やかすのは、はた迷惑。

昆虫

スズメバチ

黒色に対して敏感。頭には白っぽい帽子をかぶり、黒い服は着ない。1匹の偵察蜂を見つけたら、近くに巣があるので騒がず、ゆっくり、その場を離れよう。女性のお化粧品も蜂を呼ぶ匂いがある。

天気

怖いのは、雷だ。雷がなったら、高い木の真下には入らない。木の高さと同じほど、離れよう。

山歩き

怖いのは「下り」、そして、下山口手前に近づく自分の心(安心は禁物、油断大敵)です。



山の準備って?

標高693m、決して高くは無いが、低い山でもない。この極楽寺山で、自然を満喫し、自然と戯れるにしても、しっかりとした登山の準備が必要なのです。決して、自然を侮ってはいけません。

登山の時、気をつけたい事は?

・山の天気は変わりやすい。

出かけるときは、良い天気でも山に入ると急に霧が出たり、雨になったりするときがある。こんな時のため、必需品が「雨具」です。上下が分かれ、内部の蒸れが逃げやすく、雨の浸透がない雨具を一つは準備しましょう。

・山の温度は地表より低い。

天気予報で最低気温××度。これなら、寒くないだろうでは、準備不足です。気温は高度が100m上がるたびに0.6℃下がると言われています。極楽寺山もふもとより約4℃も下がります。ましてや風が吹くと体感温度は更に下がります。寒くならないよう防風具、防寒具は準備しておきましょう。

登山ザック



登山の時、服装は?

・夏でも長袖、長ズボンが良い。

暑さを調節できるよう脱ぎ着が出来るものを選びましょう。一番下はTシャツが良いでしょう。その他、帽子・手袋・そして一番大事なのが靴です。クルブシまで覆う、しっかりとした登山専門の靴を選びましょう。



登山靴

登山の時、持ってゆく物は?(夏山の場合)

- リュック
- 弁当
- お金
- 水分
- 行動食(アメなど)
- タオル
- 救急薬品
- ストック
- スパッツ
- 雨具
- 地図
- 懐中電灯
- カメラ
- メモ帳
- 筆記具
- 携帯電話
- 観察用ルーペ
- 敷物
- ビニール袋
- 着替え

●これで決まりではなく、その他必要に応じて、準備しましょう。